

弥富相生山線の道路建設に係る学術検証懇談会 概要

■ 懇談会の主旨

都市計画道路弥富相生山線に関し、都市交通及び周辺環境について、平成22年からの変化や最新の知見も踏まえた科学的な検証を行うため、弥富相生山線の道路建設に係る学術検証懇談会を開催しました。懇談会においては、弥富相生山線について、専門的な立場から多岐広範な意見を聴取しました。

■ 参加者

大場 裕一	中部大学応用生物学部教授
加藤 博和	名古屋大学環境学研究科教授
寺井 久慈	元中部大学応用生物学部教授
林 良嗣	中部大学先端研究センター教授
秀島 栄三	名古屋工業大学工学研究科教授
増田 理子	名古屋工業大学工学研究科教授
松本 幸正	名城大学理工学部教授
山下 興亜	中部大学名誉学事顧問
武田 邦彦	中部大学先端研究センター特任教授

■ 開催経過

開催日	議題
令和3年3月30日	・地下鉄が開通した現状での学術検証 ・学識者としての意見

■ 懇談会の結果概要

【学術検証結果】

- ・令和2年度において、懇談会参加の学識者の指導のもと、平成22年からの変化を把握するため、植物、生物環境、道路交通等の調査を実施。
- ・その結果を踏まえて弥富相生山線建設の効果について検証。
(調査検証結果は「令和2年度 弥富相生山線の道路建設に係る学術検証懇談会」資料参照)
- ・全体の評価は、平成22年度「相生山緑地の道路建設に係る学術検証委員会」報告書と同じ評価結果であった。

弥富相生山線の建設のプラス効果（平成22年度）

- ・周辺道路の交通渋滞緩和
- ・相生山緑地へのアクセス向上
- ・救急車両の到着及び搬送時間の短縮等の交通輸送の効率改善
- ・緑地全体の防災機能の向上
- ・単一植生化への遷移速度の緩和

弥富相生山線の建設のマイナス効果（平成22年度）

- ・新たな交通渋滞や相生山緑地周辺での過密駐車等の道路交通関係に関わる影響
- ・乾燥化による生物相の貧困化とりわけヒメボタルの生息環境の劣化

【主な意見】

- ・名古屋市全体の計画がない。日本全体の中で名古屋市をどういう風にしていくかという基本計画がないので結論が出せない。
- ・市の各種の計画との整合性も確認する必要がある。
- ・決めたことを覆すということ自体が、計画を立てることの信頼性を低下させている。それを事実上放置し続けたこと自体が損失だ。
- ・ヒメボタルの状況は概ね変化しておらず、道路を途中まで造ったことによって激減したということはない。
- ・竹林の面積が増え、均質性がかなり低下しており、竹林の問題が大きな問題になっている。相生山はこのままおいておけば全部竹林になる。
- ・水環境が豊かでない相生山においては直接流出を抑えるようにすべき。今回の追加調査は、非常に良い財産となると思う。
- ・通り抜けられる地区の住民たちは完全に被害者。市として、もっと対策をとってほしい。
- ・道路建設によって効果は出るが、重要なのは利用者にとって必要な効果なのか。また、その効果を市内の他の場所と比べる必要がある。
- ・QOLは現状を固定ではなく、将来の年齢構成等からバックキャスト的に決めていく必要がある。
- ・道路をフルスペックではないけども造れば、必要な効果を得ることができる。相生山緑地のような場所をきちんと名古屋にも残しておくという価値観と折衷できる案をこれから考えていくという方向に進めばいいと思う。
- ・折衷案とした時、それぞれの価値観に対してのデメリットにどう対応できるかということも考えていかなければならない。もうそろそろ現実的なところに落とし込んでいいと思う。
- ・何が問題で誰が迷惑を被るかを細かく整理し、それらを全て示す必要がある。